



読み聞かせボランティアグループ  
連絡会 会長  
久木田 弘子 さん

仲間と共に楽しむ活動を

本市には、7つの読み聞かせボランティアグループが活動しています。その連絡会で代表を務めるのは、「プーたんの会」発起人の久木田弘子さんです。

久木田さんは、小さい頃、旧志布志町で童話会の語りべをしてきたという父の影響もあり、教員として働く現役の頃から児童たちに民話の語りべをしていました。「子どもたちが目を輝かせながら話を聞いてくれるのがうれしかった」という久木田さんは、定年退職後には、近隣の学校からの要望に応じ、先生方が朝のミーティングを行う



▲枕崎小での読み聞かせの様子

先輩たちが繋いでくれたことを次の世代へ

立神地区老人クラブ連合会は、塩屋・田中・田畑・大堀地区それぞれの老人クラブからの協力により、292人の会員が活動しています。

学校応援団の活動としては、地域の子どもたちに戦争体験談や昔の遊び、昔の道具の使い方などの「経験」を伝えていく活動を行っています。活動のあと、立神老人クラブのもとに子どもたちからの感想や感謝の作文が届きます。会員の中には孫から感想が届く会員もいて、とても

●各グループの活動校

グループ名	活動校
おむすびの会	枕崎小学校
	枕崎中学校
Smile Mama Book	桜山小学校
すずの音	桜山中学校
のはら'S	別府小学校
おひさま	別府中学校
たんぼぼのわたげ	立神小学校
プーたんの会	立神中学校

時間帯に読み聞かせを行っています。この活動が読み聞かせボランティアを始める原点でした。その後、一緒にやってみていという仲間が一人、二人と増えていき、平成17年に「プーたんの会」が誕生しました。

学校や保育園の保護者を中心にグループが次々に誕生し、校区ごとにグループができた頃、「おむすびの会」の代表をしていた現市立図書館の館長である朝田さんと、7つの会がお互いに協力し、スキルアップのための研修を行うため「読み聞かせボランティアグループ連絡会」の運営も行うようになったといえます。

グループ全体で協力体制はありますが、会員の高齢化に伴い人数不足は否めない状況だという久木田さん。「自分から楽しんで活動できる方へぜひ一緒に活動してほしい」と話しました。

楽しみにしているそうです。

しかし、高齢化が進み、戦争の体験を伝えることができる人が少なくなってきました。また、老人会を解散する公民館が増えていることもあり、活動に協力できる方も減りつつあります。

会長を務める戸床さんは「組織の在り方も検討しながらも、これまで立神地区の先輩方が語り継いできたことを途切れさせてはならないという思いで次の世代を担う子どもたちに自身の体験や枕崎の歴史を語り継いでいきたい」と話しました。



昔の遊び伝承、戦争体験講話等  
立神地区老人クラブ連合会 会長  
戸床 安孝 さん

①戦争体験講話の様子 ②昔の遊び(手作り水鉄砲)を楽しむ児童 ③昔の道具(ちきり)で鯉節の重さを図る児童



ミシンの操作指導等  
たけのこ

元気をもらう子どもたちとの関わり

毎週月曜日、古民家「たけのこ」に縫い物好きの5人の仲間が集まり、楽しくおしゃべりしながら朝市などで販売する作品を作っているグループ「たけのこ」。学校応援団の活動では、家庭科の授業で子どもたちにミシンの使い方を教えたり、郷土料理の作り方を教えたりしています。

代表を務める上釜節子さんは「近所の道端で子どもに声をかけようと思っても、不審者と思



ミシンの操作指導  
家庭倫理の会

個性が見える楽しい時間

普段は地区公民館での子育てセミナーや、地域の清掃活動などをしている家庭倫理の会。学校応援団としては5名が活動しています。代表の依積田たまみさんが市の婦人会の会長をしていたとき、教育委員会からミシン操作指導の依頼を受けたのがきっかけでした。

子どもたちにミシンの操作を教えていると、几帳面に細かく縫う子や、大味に縫う子など、それぞれの個性が見えてきます。「作品が完成したときの子供た



▲桜山小でのミシン操作指導



▲別府中でのミシン操作指導



校内の環境整備等  
駒水 政則 さん

できることをできるときに

生まれも育ちも別府地区の駒水さんは、父が肺を患い、日赤病院や市立病院で大変お世話になっていたと振り返ります。父が働けない間は生活が苦しく、親戚や地域の方に助けてもらったそうです。その経験から、できることをできるときに社会に貢献したいという思いが生まれたと話します。

▲ボランティアについて話す駒水さん

学校応援団としての活動では、母校である別府中学校の草払い、剪定や害虫防除、ゲストティーチャーなどを行っています。その他に献血ルーム・天文館や県内の各献血会場呼びかけを行う献血応援隊、小・中学生の通学に支障がないように歩道の草払いを行う県道ボランティアなど活動は多岐にわたります。

学校応援団を始めたきっかけは、息子さんが在学中にPTAの施設事業部長となり、学校との関わりが増えたことでした。無造作に伸びた樹木や草が目に入り、自分でできることなら伐採や剪定を買って出たといいます。ボランティアをする上では「自分がケガをしないこと」「施設を壊さないこと、ケガをさせないこと」を心がけています」と話しました。

「まくらざき学校応援団」ボランティアを募集しています

本市では、幅広い地域住民の参画を得て地域全体で子どもたちの学びや成長を支える、地域学校協働活動に取り組んでいます。

今回取り上げた「まくらざき学校応援団」活動のほか、さまざまな活動の様子を「地域学校協働活動だより」として毎月のお知らせ版やホームページで紹介しています。



▲ホームページから  
▲ホはこち

あなたのできることを学校で、地域で、活かしてみませんか？児童・生徒や地域との関わりが、あなた自身の生きがいづくりや健康づくりとなり、新たな彩りとして人生を豊かにすることでしょう。

「まくらざき学校応援団」活動に興味をお持ちの方は生涯学習課までお問い合わせください。

■問合せ 生涯学習課生涯学習係 TEL 76-1286